

## 「体験発表会」

☆日 時 平成20年3月12日(水) 13:00～15:30  
☆場 所 山口県セミナーパーク 研修室103  
☆参加者数 80人  
☆主 催 山口県・財団法人山口県ひとづくり財団

### 1 スケジュール

- 13:00～13:05 開会行事  
13:05～14:05 講演『市民の自然保護活動〈山口発〉地球あちこち取材ノートから』 吉田 光宏 氏 (ジャーナリスト)  
14:20～15:10 体験発表会 (10分×5団体)  
1 寂地山カタクリ自生地保全活動  
(錦川流域ネット交流会)  
2 長野山緑地等施設案内看板等設置整備事業  
(渋川をよくする会)  
3 筋ヶ岳登山道整備事業 (山口ささゆり会)  
4 宇津木の里整備事業 (宇津木の里)  
5 北長門海岸国定公園内角島地域の自然環境保全事業  
(豊北町自然観察指導員)  
15:10～15:25 質疑応答  
15:25～15:30 閉会

### 2 内容

#### 講演『市民の自然保護活動〈山口発〉地球あちこち取材ノートから』

吉田氏が、自然保護と出会った経緯、自然保護への思いを日本、アメリカ、ドイツ、シンガポール、マレーシアなどの取材を基に、自然保護活動団体の様子を映像を交えて講演された。

豊かな日本の自然が劣化し続けている。日本の自然が劣化する原因としては、土砂・採石場などによるものがある。また、



荒廃した屋久島や大台ヶ原、近くでは防府市の耕作放棄地も劣化した自然である。

アメリカでは、自然保護活動団体「ベイ・キーパー」、(サンフランシスコ湾の不法投棄を見張る活動など)、「サンフランシスコ湾を救う会」(湾の浄化など)「シエラ・クラブ」(ヨセミテ渓谷を活動拠点としている環境保護団体)などの紹介



があった。サンフランシスコ湾域は、ベイエリアと呼ばれ、シリコンバレーなどを含む産業の盛んな地域である。温暖な気候で、近郊には豊かな自然環境が存在する地域である。多くの自然公園があり、そこでは活発な自然保護活動を見ることができる。

ドイツでは、外来種であるベイマツを植林していた場所に、元々この地域に生育していた木に戻す活動や絶滅した動物を再導入する活動の紹介があった。

シンガポールでは、自然公園に力をいれ、エコツーリズムが行われる。

最後に日本での活動を紹介します。一般の方にどんぐりを集めてもらい苗木（数種類の木から選ぶ）と交換をしている団体がある。この団体は、交換したどんぐりは発芽させて苗木として自然に戻す活動をしている。

自然史博物館も各地にある。北九州市立いのちのたび博物館、大阪市立自然史博物館、国立科学博物館などである。訪れる価値のある場所である。

農林漁業と自然との関わりも重要である。人間の生産活動によってできた「二次的自然」も重要であり、農業が果たす役割は大きい。日本はアジアモンスーン気候により、雑草がよく生える。これは牛のエサとなる。これを利用した山口型放牧は、自然環境と農業を蘇らせる「新しい放牧」である。

## 【体験発表】

### 1 寂地山カタクリ自生地保全活動（錦川流域ネット交流会） 12月1日実施

山口県最高峰の寂地山頂上付近に自生しているカタクリが、盗掘や踏み荒らされる等の被害にあっている。このことを防ぐために、「立ち入り防止柵」の設置、「注意・案内標識」の設置等を行った。その後、「寂地山の自然環境」についての解説を行った。今後、登山者がカタクリを保全してくれることを望んでいる。



### 2 長野山緑地等施設案内看板等設置整備事業（渋川をよくする会） 11月24日実施

ササユリの採取を防ぎその保存を目的として、点在する箇所を杭、ロープ等で囲み注意看板を設置した。同時に、公園内にある主要な植物に表示板を設置し植物観察を出来るように整え、併せて植物表示板の設置場所を掲示する看板を設置する。

自然保護、自然再生等の活動に取り組み、自然共生型の地域づくりを推進するための自然体験学習の場とすることで、次世



代まで環境に配慮できる人を育てることが出来るようにしている。今後、今回設置した看板等により長野山緑地を訪れる人達が、自然環境を守ることの大切さに気づき、行動してくれるよう伝えることに役立つ。

### 3 蒨ヶ岳登山道整備事業（山口ささゆり会）10月28日、11月18日実施

視覚障害者と共に登山等の自然に触れる活動をしている団体である。障害者と一緒に山口県を代表する名山「蒨ヶ岳」に登山し、一緒に楽しむことにより体中で自然を感じながら、環境を保全することの大切さを認識することとしている。視覚障害者と一緒に登山し、健常者が気づかない場所も、彼らが危険でないように枝打ちや段差補正等の登山道整備を行うための下見をするとともに登山口付近の草刈りを実施した。今後も視覚障害者の感じる自然環境を共有するために登山道の整備活動をし、環境保全の大切さを伝えていく。



### 4 宇津木の里整備事業（宇津木の里）11月17日実施

里山の保全を目的に森林整備を行うと共にこの場所に生育する樹木を学ぶ観察会を実施した。2月には森林整備をした場所に植林をした。今後も里山の保全を続け、この場所を訪れる方々に、自然にふれ環境の保全の重要性を感じてくれることを望む。



### 5 北長門海岸国定公園内角島地域の自然環境保全事業（豊北町自然観察指導員）9月8、9日実施

9月8日、大浜海岸クリーン大作戦とし、大浜海岸の砂丘や岩場にある漂着物や捨てられたゴミを分別回収した。

ゴミの中身は、ビニール、花火、タバコの吸殻、ビニールシート、漁業用の縄、缶、ペットボトルが多く、中には、バーベキューコンロセットやデッキチェアなど、総重量 580Kg のゴミを回収した。 ※木、海藻等自然に帰るものに関しては回収しない。

9月9日、夢崎、牧崎にそれぞれ意識啓発看板を設置する。

夢崎はハマオモト（ハマユウ）の自然群落地。この貴重な海浜植物を盗掘や損傷から守るため。また牧崎は、季節に応じた野生植物が多くあり、自然とのふれあいができる貴重な場所である。最近はこの貴重な植物の損傷の被害が多いため、意識啓発看板を設置した。今後、ハマオモトなどの貴重な植物に注意を払うことで、植物が損傷や盗掘にあわないことを期待する。また、自然観察指導員が行う講座等でも、貴重な植物の保護を伝えるための道具として啓発看板を利用する。

